現地補習授業校の現状と課題

── 日本人学校と補習授業校の連携を通して ──

前マドリッド日本人学校　教諭
愛知県額田郡幸田町立幸田中学校　教諭　柴　田　孝　之

キーワード：現地理解，補習授業校，現状と課題，日本人学校との連携

１．はじめに

マドリッド補習授業校とは本校と同じ校舎を利用し，毎年７月の本校体験入学には10数名の補習授業校児童生徒が本校を訪れる。また，本校の校内研修でも年に１回は全職員で補習授業の授業を参観し，それをもとに意見交流会も実施している。そういった関係もあり，マドリッド日本人学校とマドリッド補習授業校とは密接なかかわりがある。

そんな中，私が始めてマドリッド補習授業校の授業を参観したのは，平成17年12月３日（土）であった。参観した授業は，小学４年の国語，６年の算数と中学２年の国語であった。学級の中には，日本で言ういわゆる「学級崩壊」に近いクラスもあり，授業が成立しない場合もあった。それでも，補習授業校の先生方は熱心に子どもの指導にあたり，何とかして学習内容を理解させようと取り組んでいたが，学習指導・生活指導面でなかなか上手く指導できていないのが現状であった。

以上のことから，マドリッド補習授業校の現状と課題を明らかにし，日本人学校との連携を通して，マドリッド補習授業校のよりよいあり方について考察した。

２．補習授業校の概要

(1) 名　　称　　マドリッド補習授業校
(2) 設　　立　　昭和56年９月１日
(3) 設　置　者　　日本文化基金財団
(4) ステータス　　在スペイン日本国大使館附属教育施設
(5) 運 営 主 体　　マドリッド補習授業校運営委員会

３．教育方針

(1) 基礎的な教科の補習を通して，在外幼児・児童・生徒が日本語学習に効果をあげるように，帰国幼児・児童・生徒が日本での教育と生活に適応できるよう指導を行う。
(2) 幼児・児童・生徒の異なる学習目的をふまえ，学力レベルだけに偏重しない幅広い人間形成の立場から，個の能力適正に応じた柔軟で平等な教育指導を行う。

４．補習授業校の現状について

補習授業校に入学している児童生徒は，「両親あるいは父親，または母親が日本人であり，日本語での日常会話がある程度できる子どもたち」である。その子どもたちは，普段は現地校，インターナショナル校に通学している。補習授業校は，その子どもたちに「日本語による教育を通じて，日本人としての資質の維持，向上並びに，日本文化を学ばせること」を目的に掲げている。

学級編成は，幼児部，小学部，中学部，セミナークラスの４つに編成され，さらに保護者の希望を考慮して，A

クラス・Bクラスの２クラスに分けて授業を行っている。教育内容は，教科（国語，算数，数学）を及び校長判断による特別授業（運動会，遠足，スポーツデー，その他）が行われている。学期は，３学期制で日本と同様に４月開始である。授業日は，毎週土曜日。今年度は，年間40日（行事日１日＋卒入学式１日含む）が実施され，各授業日の授業時間は，原則として３時間で，１時間は50分である。

５．補習授業校の抱える課題と解決策について

補習授業校の課題は，生徒指導面，学習指導面，教育課程等のどれをとってもいろいろ考えられるが，参観した授業や意見交流会を通して判明した課題は以下の通りである。

(1) 生徒指導面

意見交流会で，補習授業校の先生から次のような質問が出された。

☆「授業を受ける態度の悪い子供，落ち着きのない子供への対処の仕方。言葉のかけ方，注意の仕方，しかり方等のアドバイスをお願いします。」

参観した授業からもいえるが，基本的な学習規律が徹底されておらず，授業全体が落ち着きのないものになっている。まずはこの点が一番の課題ではないかと考える。

改善策として，

・チャイムスタート・・・放課と授業のケジメをもう少しはっきりさせる。気持ちの切り替えとして，授業の始めと終わりの挨拶も元気よく行う。

・教師の環境整備・・・・教師は余裕を持って教室へ行き，黒板や机上の整理整とん，床のナップ サックなどをしっかりと子どもに片付けさせる。授業が終わったら，次の授業の用意をしてから，放課にする。ナップサックは，机の横下ではなく，教室後ろに整頓して置かせる。

・学習のルール・・・・・聞く時，話す時，読む時，書く時のとるべき 態度を繰り返し言ってやらせる。特に，児童が発表している時や教師が 発言している時の聞く姿勢を徹底する。

・座っている姿勢・・・・目の健康も考慮して，椅子に座る姿勢に気をつけさせる。

・児童の机上の整理・・・机の上に置く物と机の中に入れておく物を明確にし，学習に関係ないものはカバンの中へ入れさせる。

以上のことを，年度当初からルールを決めて子どもにやらせるのが最も大切であると考える。また，教師の側の取り組みとして，「魅力ある授業の実践」も大切であるが，これについては，学習指導面で述べることとする。

最後に，子供への対応の仕方であるが，以下の点が課題であると考える。

・対応の仕方・・・・・・一人の児童に関わりすぎると他の児童が遊びだす。一人の子どもの発言に上手く対応し（止める，受け流すなど），常に全体に目を向けることが大切である。

・少しでもよい点を見つけて，ほめてのばす。

・注意する時は，なぜそれがよくないのか理由を子どもに明確にし，子どもに考えさせ理解させる指導する。

・保護者への協力を求める。定期的に保護者の授業参観，校内巡視等を依頼する。

これらの点が生徒指導面の課題であり，少しでも改善，工夫することで落ちついた授業ができる環境が整うのではないかと考える。

(2) 学習指導面

学習指導に関して，意見交流会で補習授業校の先生から次のような質問が出された。

☆「戦争を題材にした教材を扱う際に，戦争や当時の日本の状況について，どこまで説明するのが望ましいか。」

☆「日本では，新出漢字はどのように学習しているのですか。現在の補習校では，読みだけを指導し，テスト等で確認している。書きに関しては，どうしていくべきか。」

☆「宿題に国語や算数のプリントを多用することの効果はあるのか。また，補習校での宿題（夏休みも含む）の適切な量と内容についてどうしたらよいか。」

補習校では，日本で使用している国語，算数，数学の教科書を利用して授業を進めているが，年間40日足らずの授業日数で教科書を全て終えようとする年間指導計画を作成し，実施している点がまず大きな問題で，教育活動全般にひずみとなって現れていると考える。

実際の授業は，教師の一方的なしゃべりによる説明とプリントを利用した学習，残りは宿題による家庭学習というパターンが繰り返されている。教育課程等が現状のまま，学習指導面のみ改善するのは難しい問題であるが，解決策としては以下のような点を工夫してみるとよいのではないだろうか。

・学習内容を大幅に見直し，削減や精選，軽重をつけた年間指導計画を作成し指導を行う。場合によっては，教科書を利用せず，独自の教材を作成して指導にあたる。

・黒板の効果的な利用・・・授業の一番の目標や課題，何ページのどこをやるかなどを板書し，授業の流れが分かる黒板にする。（例）日付，曜日，本時の目標（ねらい），児童の発言など

・算数に出てくる難しい語句は，国語とも連携して効果的に指導していく。

・教師が説明の部分で，しゃべりだけで進めているので，黒板や，具体物などを効果的に利用する。

・音読の読む姿勢と聞く姿勢・・・指でなぞり読み以外は，教科書をしっかり持って音読させる。手遊びも防止できる。児童に読ませる前に教師が範読する。

・魅力ある授業作りに努める。授業の全体の流れを考え，発問や資料提示（板書計画含む）を工夫する。興味を引くような質問や実践（具体物の利用，教材教具の開発），集中力を持続させる工夫，メリハリのある授業展開を考える。

・一斉指導の中で，個人差に対応した効果的な個別指導を工夫して取り入れる。

以上が，学習指導面の課題であり，生徒指導面と合わせて改善，工夫することで少しでも魅力ある授業ができるのではないかと考える。

(3) 教育課程

昨年，平成18年度の意見交流会でも出されたのが教育課程の見直し問題である。児童生徒の実態や意識，保護者の要求に対応した教育課程の編成は重要な課題であると考える。

教育課程に関して，補習校の職員から以下のような質問が出された。

☆「補習校の現実を考慮して，算数科を今後どうして行くべきか。算数を削った場合，保護者や子供たちにとって，今以上に魅力ある補習校の授業が実施できるのか。また，算数の代わりにどのような学習を取り入れていけばよいのか。」

☆「現在Aクラス（国語，算数，数学），Bクラス（日本語）についてのクラス分けは，保護者の希望を取って決めているが，近年低学年（１年生の初めから）で，教科書を使用して授業を進めていくのが厳しい子供たちが増えている。このため，本来のAクラスの授業内容がかなり変わってきており，教科書を十分に理解できる子供たちにとって，授業が物足りなくなっている場合もある。入学時におけるクラス分けは，今後も保護者の希望だけを考慮して決めていくのがよいのか。また，このような日本語能力で大きく2つに分かれてしまったAクラスにおいては，どのレベルに比重を置いて授業を進めていけばよいのか。」

現在の補習校では，「中身が変わっても入れ物を変えない状態」で日々の授業に取り組んでいる。児童生徒の実態（能力や意識）を十分に把握し，保護者の意見を考慮しながら，「何ができて何ができないのか」をはっきりさせて，

思い切った改革が必要な時期に来ていると思われる。教育課程の見直しとして，以下の点が課題ではないかと考える。

・算数，数学を廃止する。算数，数学については，現地校で学習が行われ，教科書や学校による進度の違いや学び方の違いがある中，補習校で児童生徒を学年だけで一律に分けて学習を進めるのは大きな問題であると考える。また，領域によっては，日本とスペインで計算の仕方がまったく違う場合があり，かえって混乱を引き起こす可能性もある。

・国語ではなく「日本語教育」を柱にした教育課程の編成と年間指導計画の作成に取り組む。40日の授業日数で，国語の教科書を終えるのは無理であり，児童生徒の理解不足と負担を増すだけである。したがって，教科書は利用せず，以下の活動を学年別，段階ごとに学習する。

※小学１年から中学３年までの平仮名，カタカナ，漢字の「読み・書き」の反復練習に取り組む。独自の平仮名，カタカナ，漢字ドリルの作成も視野に入れる。

※精選した詩，短歌，俳句，物語等の音読，暗唱，視写の反復練習に取り組む。

※テーマを決めた俳句作り，５文字や７文字の言葉調べ等の表現活動に取り組む。

※テーマを設定した１分間スピーチ，しりとり・しゃれ遊び，回文作り等の話す活動に取り組む。

※テーマを決めた短作文作りに取り組む。

・授業時間帯を土曜日の午前のみとする。土曜日午後からの授業は，児童生徒にとってかなりの負担であり，学習意欲の低下を招く。教育課程のスリム化やBクラスのクラス統合（現在の学年別４クラスではなく，能力別２クラス程度）によって実現可能であると考える。

・A，Bのクラス分けについては，保護者の希望を考慮しながらも，日本語の読み書きが十分かどうかを最優先して決定する。保護者には家庭学習，授業参観，校内重視等の協力も依頼しておく。簡単な筆記試験や面接を実施するのもよいと考える。

以上が，教育課程上の課題であり，思い切った改革をすることで，子供たちの実態に即した，そして，保護者の願いにかなった魅力ある教育活動ができるのではないかと考える。